

森づくり最前線

利根沼田森林管理署 相俣森林事務所 首席森林官 生田目 幸喜



平標山山開き



下刈されて陽をあびるスギ苗木

私が勤務する相俣森林事務所（相俣・月夜野担当区）は群馬県北部のみなかみ町にあり、国有林約13千haを管理しています。過去には多くの基幹作業職員を配し造林作業等を行ってきましたが、現在では非常勤職員の協力を得て各種調査や管理業務を行っています。管内においても収穫量が増え、同時に造林事業量も増えてきていますが、収穫予定箇所が奥地化し、集材機でないと搬出できないような箇所もあり、収穫量の確保が課題になっています。

また、「ヤマビル」も悩みの種です。管内国有林の至る所において、対策を怠るとたちまちその餌食となってしまう。拡大の原因は野生動物だと思えますが、イノシシはもちろんなホンジカも増加しているようです。シカの森林被害はまた顕著ではありませんが、いずれは管内でも捕獲対策を実行する時代が来るように思えます。

かつて当地は、太平洋と日本海を結ぶ交通の要所でした。上州高崎から三国峠を越えて越後新潟の寺泊へと至る三国街道は、かの上杉謙信が軍勢を整え幾度も行き来した道であり、日本海側と江戸を最短距離で結ぶ商業路として当時の江戸幕府も整備に力を入れる中、多くの通行者で栄える街道となっていました。現在では道の大半が国道17号となっていますが、沿線には徳川家康が設けた猿ヶ京関所跡や永井宿、須川宿など宿場町が多く残っており遠い昔を偲ぶことができます。このうちの須川宿は、当時の宿場町と農村景観を残すため地域の人々によって整備され、様々な伝統工芸・文化を体験でき



シラネアオイと谷川の山々

る「たくみの里」となっています。「道の駅」が整備され、ものづくりや体験ができることから、多くの人々が訪れる観光スポットとなっています。

また、関東局の重要な取組である「赤谷プロジェクト」は、相俣森林事務所管内を拠点に活動を展開しています。地域住民、自然保護団体、国有林という立場の異なる三者が協働し、生物多様性の復元と持続可能な地域づくりを目指した新時代の森林生態系管理に挑戦する相俣担当区全域を「赤谷の森」として設定したプロジェクトです。猛禽類の繁殖に配慮した森林施業、希少生物や湿原の保護等、プロジェクトの要請に応じた業務推進は、ときには請負事業者等の理解を得ることに苦労することもありますが、もともとある自然環境を守りながら持続可能な地域づくりを目指すという考え方は、国有林にとっても重要な課題であり、引き続きプロジェクトの推進に協力していきたいと思えます。



たくみの里のいのししオブジェ



ニューナイスズメ(入内雀)
約14cm。人里で暮らす普通のスズメと違い、森で暮らすスズメ。頬は黒くない。メスと雄には眉毛模様がある。

さらに、昨年には、みなかみ町がユネスコのエコパークに登録され、国有林も自然環境の保全など多くの課題に関わっていくこととなります。今後も地域の要請に応えることができるよう努力していきたいと思えます。

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027) 210-1158
FAX (027) 230-1393